

## 緊急特集 No.2

# 後期高齢者医療制度は見直しか廃案を

この4月から75歳以上の方達はいやでもこの制度に入られます。収入0でも、『扶養家族』でこれまで支払う必要のなかった人でも、全ての人が保険料を支払わなければならなくなりました。神崎市議会は高齢者の生活を守る為、この保険制度の見直しを求め、政府に意見書を提出しました。

議会広報特別委員会は、この問題で市内の老人クラブ役員有志の皆さんと意見を交わし、その後、神崎市郡医師会会長、福嶋和文先生にインタビューをしました。

### 老人クラブ役員有志の方達

八谷喜三郎氏、田中道昭氏、服巻悟氏、立石田鶴子氏



**委員長** 今日4月から始まる後期高齢者医療制度について、皆さんの率直な意見を伺いに参りました。

**立石** この制度がどのようなものか、理解が今ひとつと感ずる。

**八谷** 年金から介護保険と合わせて引かれると、生活が大変と感ずっています。また県によって保険料が違う。佐賀県は福岡県について高いと聞いています。

**田中** 役所からの説明は20分ぐらいでした。これでは理解でき

ない。なぜ75歳以上から取るのでしょうか。

**服巻** 年金は減り、このような負担が増えてくると大変です。家族にもこの保険制度の説明はすべきと思いますね。

**八谷** テレビで、この制度は老人を姥捨て山に捨てるような制度と言っていたが、本当にその通りだと思えますね。見直しをし、廃案にして欲しいです。

**立石** とところで、脊振国保診療所はお医者さんが2ヶ月ごとで替わるようになってしまいました。医者との信頼関係が築けないのと、交替されるごとに毎回同じ説明をしなければならぬので、受診者から不満の声が出ています。しかし脊振の診療所は住民にとっては本当に頼りです。

**八谷** 脊振の診療所が廃止されるのではないかと、住民は心配しています。是非このような懇談会は続けてください。

## 神崎市郡医師会会長 福嶋和文先生に聞く

この後期高齢者医療制度については、医師会としては基本的には反対です。しかし実施されても、医師会として、患者さんへはこれまでと変わらない対応は続けていきます。

しかしこれからの問題として、医療サービスの枠が制限される『定額制』が導入されたことで、十分な治療が受けにくくなります。また保険点数の見直しで、採算が取れなくなったら患者さんの強制退院も予想されます。この制度はスタートしたばかりなのに、既に問題が出ています。

